

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 2 月 9 日

【評価実施概要】

事業所番号	2172400174		
法人名	社会福祉法人 博愛会		
事業所名	グループホーム あつたかホーム I・II		
所在地	岐阜県不破郡垂井町宮代1153-2 (電話) 0584-24-1211		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成21年2月6日	評価確定日	平成21年3月12日

【情報提供票より】 (平成 21 年 1 月 19 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 8 月 3 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 14 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (利用料の2ヶ月分)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	340 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 60 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成 21 年 1 月 19 日 現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名
要介護3	7 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 77 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	特定・特別医療法人博愛会博愛会病院、はくあい内科クリニック、菅原歯科
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設から7年目が過ぎたこのホームは、母体法人の複合型施設の一つである。町の中心部から少し離れた閑静な山沿いに位置し、利用者は隣接しているデイサービスのレクリエーションに参加したり、特殊浴を利用したり、複合型の特徴を十分に活かした支援を行っている。医療が必要になったり、ホームでの生活が不可能となった際は、入居時に申し込んでおいた法人内他施設に移ることとなっている。管理者と職員は限りある利用者との生活を共に過ごし、思いを寄せ、幸せを感じてもらえるよう日々取り組んでいる。ホームの愛犬は利用者の散歩に同行し、アニマルセラピーにもなっている。リビングの水槽には熱帯魚も飼い、利用者職員と一緒に掃除し、動物愛が自然と芽生える取り組みをしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回評価での改善課題の「訪問者の面会簿」についてはホームと職員が話し合い、カード式に変更することを家族に説明し、了解を得た。日々のケアと平行しながら、確実に改善への取り組みが進んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	ユニットごとに自己評価を行い、職員の意見も取り入れたものを管理者がまとめ上げた。管理者と職員は話しやすい関係ができており、日々のケアの中での気づきや発見・工夫は職員会議にかけ、実践に移している。自己評価作業を通じて職員間のケアの確認もでき、サービス向上に役立っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、主にホームの活動報告や介護保険の内容などについて説明を行い、2ヶ月に1度定期的に開催されている。行政も毎回出席しグループホームの存在が、広く地域で知られるよう、ホームからの働きかけをしている。外部評価の内容についても会議内で報告され、毎回議事録に記載されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	法人の便りを年に4回発行し、行事・イベントの案内や報告を家族に送っている。本人の担当者は家族の訪問時に詳細に日々の様子を伝え、足が遠い家族には電話などで報告している。行事やイベントで撮ったニコニコ笑顔の利用者の写真は、管理者の心づかいで家族に手渡されたり、リビングに飾られている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
重点項目④	自治会に加入していないが、ホームの存在は地域に認識されつつある。夏に行われる法人主催の福祉祭りには、多くの人々が地域から集まり、住民・職員に業者も交じって屋台や祭りを盛り上げている。盆踊りのおはやしに合わせ身ぶり手ぶりで踊ったり、屋台の美味しい食べ物に舌づつみを打ったり、利用者も職員も住民と共に、夏の祭りを心待ちにしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの運営方針に「生きがいのある地域作り」と文言が入っており、理念には「尊厳」もうたわれ、利用者が住み慣れた地域での安定した生活ができることを目標にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	名札の裏には理念が書いてあり、管理者と職員は常に意識して、理念に沿った日々のケアを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、法人全体で行う夏の福祉祭りには地域住民が多く参加し、ボランティアも手伝って地域イベントの一つとなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニット毎に職員が目を通し自己評価を行い、最終的に管理者がまとめ上げたものであり、職員からは様々な意見が表出されており、評価の作業はホームにとって有効な改善への一歩となっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度、自治会長・老人会長・民生委員・包括支援センター職員・行政・第三者委員・家族代表など多くの参加を得て開催され、介護保険の内容や行事報告を行いながら出された意見はホーム内で共有し、さらなる質の向上へと結びつけている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には行政担当者が毎回出席し、ホームからは相談事、町からは意見書をもらい、サービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	法人全体の便りは年4回発行されているが、家族の来訪時には本人の様子を担当者から伝えている。家族会では利用者と一緒にお菓子作りを行い、利用者と家族のコミュニケーションにも役立っている。日々の中で撮り溜めた写真は家族にブックにして渡している。	○	年4回を発行されている法人全体の便りと共に、ホーム単独の便りや利用者の日々の様子を知らせる報告書の作成を一考し、家族の安心感に結びつけられたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口は広く設けてあり、管理者と職員は家族の来訪時に言いやすい雰囲気作りに努めている。	○	ホームは家族の要望を聴く努力をしているが、家族の中には不満の声もある。家族の本音を吸い上げる工夫を検討されたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、法人内で決められるが、その際は職員が引き継ぎと申し送りをする事で、極力利用者にダメージを与えないよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には積極的に参加し、職員の力量の向上を図っている。職員は全員が常勤となっており、経験や習熟度に応じて段階的に育成できる取り組みをしている。希望の研修には、職員間の調整を行い、できるだけ参加できるように配慮をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホームの管理者同士の交流会を通し、相互の質の向上を図る取り組みを定期的に行っている。	○	さらには、管理者のみならず、介護職員が互いのホームを定期訪問し合い、意見交換や研修を行うことは、職員にとって貴重な教育の場ともなり、引いては利用者のサービス向上へと結びつくことになり、定常的な実施に期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	母体法人のデイサービスやケアハウスの利用者が入居することが多く、利用希望者は顔見知りの職員に安心をし、ホームでの生活の流れを理解してもらった上で入居してもらう配慮をしている。本人と家族からのヒアリングを綿密に行い、円滑なサービス開始となるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は職員と共に日々の家事や畑の世話をし、収穫の喜びを味わっている。レクリエーションでは百人一首を楽しみ、若い職員が教えられる場面も多い。職員はなるべく手を出さず見守りの姿勢を取り、日々支えあって暮らしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から意向や希望を聞き取り、日常生活の中でも本人との会話や表情から意向を把握するよう意識して接し、その内容は全職員に共有できるよう記録している。テレビ鑑賞の際に昔の芸能人の話を職員が聞き、昔話や趣味の話に花が咲くことも多い。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケア会議の中で出された担当職員の意見も取り入れ、利用者から聞き取った希望や意向に添った介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは3ヶ月に1度であるが、利用者の状態に変化があった際や必要時は、随時見直しを行っている。利用者の担当者からの日々の細かい観察や情報を取り入れ、家族にもその都度伝えて、確認を行う作業をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内にある美容室は安価な料金で利用できるよう計らっている。隣接しているデイサービスのレクリエーションに参加したり、特殊浴を利用するなど、柔軟な支援を実現させている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医のほか、約半数の人が本人の希望するかかりつけ医に家族が同行して受診をしている。受診内容については家族と常に連携を取り、情報の共有化を計る支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化はホームとしては避けて通れない問題と認識はしているが、医療機関と連携が取れる体制にあり、医療行為が必要になった時点で他施設へ移る手配と申し込みを、入居時に説明の上で行っている。	○	看取りは行わないとしても、加齢や認知症レベルの低下により重度化に対応すべき様々なケースに必要な指針と方針を決め、職員間で統一されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者と職員は、個人情報の保護に関する取り扱いやプライバシーについての統一的な取り組みが行われている。誘導時にはさりげなく、目立たない配慮と対応を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の起床時間はおのこの自由に任されており、1人で着替えてリビングのテーブル拭きなど朝食の準備を行う人もいる。1日の流れはあるが、利用者のペースや希望を聞き、見守りながら柔軟に対応と支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は法人の厨房で作られたものを、ホーム内で利用者が盛り付けをして全員で食している。職員は各自弁当などを持ってきて、同じテーブルで広げ、介助しながら和気あいあいと談笑して楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に3回、職員が多い午後から夕方までの時間に行っている。りんご湯、みかん湯、菖蒲湯など四季折々の香りを楽しみ、調査当日はラベンダーの湯となっていた。入浴が苦手な人にも、コミュニケーションに工夫をし、入浴してもらう配慮をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の人数分だけモップが用意されており、自分の部屋は自分で掃除をし、居室が済むとリビング等のモップ掛けも行い、日々の生活の中に一人ひとりの役割がある。本人の希望により買い物や外食に同行したり、日帰り旅行は利用者の楽しみともなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候や利用者の希望により、ホームの飼い犬も同行して散歩を楽しんだり、畑に出て日光浴がてら土いじりを行うなど、その人その人の個別な要望に合わせ、外気浴や外出を支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前、職員が知らないうちに外へ出かけてしまった利用者があり、職員総出で探し回ったことから、玄関の鍵は施錠されており、入る時はチャイムの合図で開錠し、出る時はボタン操作で対応している。	○	安全面の重視としての施錠とは思われるが、鍵をかけないケアをめざすためには、どのような配慮が必要かを課題とし、職員間で十分話し合い、施錠が常態化しないような取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した避難訓練を年に2回行い、職員連絡網の見直しも行った。居室の火災報知機などの設置等ハード面の工夫は目ざましいものがある。	○	運営推進会議で災害時の住民協力を求めたり、避難場所や備蓄品、家族への対応・連絡方法など、訓練以外で多くのことが災害時には必要となるため、行政にも力を借り、災害時計画を進め、実行に移されたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は個別に記録され、体重の増減にも目を配り、食事を通して、利用者の個々の状態が維持できるよう支援している。栄養士によるバランスの取れた献立で、利用者の状態に合わせ、刻み食等にも対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングと台所は程よい明るさで調整され、利用者はのんびりとくつろいでいる。リビングの壁には手作りによる節分の鬼の面や書道の色紙などが飾られ幼稚さのない、落ち着いた飾りつけがされていた。トイレは同時に3人が使用できる広さがとっており、男性用と女性用で仕切られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面台が備えつけられた居室は日差しが入り、窓からは庭が望める。ベッド・1人用のテーブルと椅子は備え付けで、その他は利用者が持ち込んでいる。居室内には、手作りカレンダー・俳句色紙・塗り絵などが飾られ、おのおの個性ある居室となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。